

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者氏名：90代 女性 要介護4

利用期間 ：2024年 8月～ 2025年 4月

経 過 ：独居、娘は音信不通。2017年に脊柱側弯症により、背部にボルト2本を埋め込む手術を行い、前かがみになれない等可動域が低下していたが自宅で夫と生活していた。

2023年2月に悪性リンパ腫にて入院となる。抗がん剤治療にて安定していたがその頃夫が亡くなる。

2024年5月に悪性リンパ腫再発。姪と20年ぶりに再会し自宅に住み込みして支援を受けていた。自宅にて転倒を繰り返すが「トイレに行きたい」と強い希望があり、排泄ケアと体調面の心配から当施設入居となる。

内 容

2024年8月入居。自宅ではベッド上での生活が主体で一日の大半の寝て過ごしていた。トイレに行く際は姪の支援があってもかなり困難だった様子。施設入所時「トイレには絶対に行きたい」「リハビリがしたい。少しでも自分で出来る事を増やしたい」と希望があった。

入居後すぐにリハビリ介入開始。「オムツは嫌だ、トイレで用を足したい」という希望があったが、立ち上がりの際にふらつきが強く、膝も上手く伸ばせずスムーズにいかない状況であった。ニーズである”トイレに行きたい”を叶える為、二人介助でのトイレ誘導を実施。排泄介助が安定して行えるようになる。それに伴って車椅子を自操されたり毎日の体操に参加されたりと自分で出来る事が増えてくる。入居3ヶ月経過の11月よりリハビリや毎日のトイレ誘導を行っていった結果、軽介助でトイレ介助が行えるようになる。

穏やかな生活を送る中でずっと気がかりだった娘に会いたいと話される事が増えて来る。連絡を取ってもらおうと娘も再開を希望された為、12月に当施設で再会「辛くても頑張って生きてきて良かった」と喜び涙を流されていた。それ以降リハビリに対してもより一層取り組む姿が見られた。「自分で出来る事が増えてきた。皆さんが支えてくれたから頑張れた」と自分を誇らしげに語られる事もあった。

2025年3月悪性リンパ腫増悪の為食事を摂れなくなり、ベッドから起き上がる事もトイレに行く事も出来なくなってしまう。娘より「最後になると思うので自宅を見せたい」「その際にお花見も出来ればしたい」と要望あり。これが最後の機会という事で主治医に確認を取り外出援助を計画。娘、看護、介護、施設管理と共にご自宅までのドライブを実施。満開の桜を見る事が出来る。殆ど会話が出来ず、目を開ける事もない状態が続いていたが「桜が見えますよ」と声を掛けると目を開けてうなずかれる。1時間程の外

出だったが目標であった自宅に帰る事とお花見をするという事は達成できた。

外出計画から2週間後当ホームで職員に見守られながら亡くなる。ADLの改善を目標とし、また入居者に寄り添い安心と安全をお届けできたこの事例をキラキラ介護賞として推薦します。

【関わった職員】

【介護】排泄介助、外出同行 【看護】医師へ状態報告、外出許可、外出同行 【CM】外出日程調整、医師往診日程調整、家族連絡

【施設管理】外出同行 【PT】日常生活訓練、介助指導